

震災復興版Gyro(ジャイロ)

がんばろう福島

～ Voices from Fukushima ～



当協会HP をご覧ください。

東日本大震災から2年半が経ちました。今もなお困難な生活を余儀なくされている被災者の方々に心よりお見舞い申し上げます。また、全国の皆様からは、変わらぬご支援と温かいご声援をいただき、誠にありがとうございます。

(公財)福島県国際交流協会では、震災直後より当協会広報紙「ジャイロ」の震災復興版として「がんばろう福島」を発行し、福島県の現状や外国出身県民の声、復興に向けた活動等を紹介しています。

※本紙の翻訳版は、当協会HPからダウンロードできます。



福島の風景

「外国人住民にとっての東日本大震災・原発事故を考える福島フォーラム」開催



- (写真左)
8/2 原発事故の影響を見学した「街中ツアー」
- (写真中央)
8/2 グループセッションの様子
- (写真右)
8/3 川内村の野菜工場を視察「バスツアー」

8月2日(金)から3日(土)にかけて、全国の自治体や国際交流協会の職員、大学等で外国人支援に関わっている方など約70名の方の参加のもとフォーラムを開催しました。

8月2日(金)の午前中は、オプションの「街中ツアー」を実施し、参加者25名で福島駅西口周辺を歩き、日常生活の中での原発事故の影響を見て回りました。午後からのフォーラムでは、外国出身の方12名の協力を得て原発事故当時のことや今どのように向き合っているかについてのグループセッションを行いました。翌日は、原発事故からの復興を見て感じるバスツアーを実施しました。26名の参加者ととも川内村を視察し、午後は福島に戻り飯館村の菅野村長の話を聞きました。参加者からは、「原発事故当時、2つの祖国を持つ外国出身住民にとって避難する、しないは苦渋の選択だったこと、原発事故は津波被害とは違って目に見えない『静』の恐ろしさがある」といった感想が寄せられました。(2013.8.2～3撮影)

南相馬市 水遊びを楽しめる「じゃぶじゃぶ池」

津波被害と放射性物質の心配などから、現在も海水浴や外での水遊びを控えざるを得ない南相馬市の子どもたちのために、南相馬市の市民団体が全国から寄せられた寄附金を活用し、市内原町区の高見公園内に「じゃぶじゃぶ池」と名付けた人工池を整備しました。

7月21日(日)にオープンし、連日涼を求め多くの親子連れが水遊びに訪れています。(南相馬市 2013.8.14撮影)



水しぶきをあびて喜ぶ子どもたち



天鏡閣「西客室」を見学する参加者

洋と和 それぞれの格式の高さに触れる

8月21日(水)の「福島県民の日」の記念イベントとして、猪苗代町にある天鏡閣の終日無料開放と隣接する迎賓館の特別公開が行われました。それぞれの施設でガイド付きの見学ツアーが行われ、参加者は普段なかなか見ることのできない皇室ゆかりの国の重要文化財を鑑賞し、贅沢な時間を過ごしていました。

(猪苗代町 2013.8.21撮影)



福島に暮らす人々の声

河野 恵子さん（福島市在住 中国出身女性）

私が日々意識していることは、「平常心で過ごす」ということです。東日本大震災後しばらくの間は、冷静さを失ってしまい、些細なことでも小さな娘の成長に影響が出ないか心配ばかりしていました。幸い仕事をしていたので、周りの人たちと協力し合うことで、悪いことばかりは続かないし、いつか良いこともあるだろうとプラス思考になり、多角的に物事をとらえて状況判断ができるようになってきました。

原発問題など福島はまだまだ困難なことが多いですが、情報収集をおこたらないようにし、その中で福島の復興のために今の自分にできることを積極的に行っていきたいと思っています。

本田 直木さん（福島市在住 フィリピン出身男性）

東日本大震災が発生する10日前、自分の家が火事になるという大きな不幸に遭いました。しばらくは家族が離れて暮らすことになり、また、震災の影響で働き始めるのが2カ月遅れることにもなり、2011年は辛い思い出しか残っていません。今も振り返りたくないことばかりですが、調理師になる修業を重ねて、今年の夏に福島市内に飲食店を出すことができました。ハードな毎日ですが、今はとても充実しています。お店にたくさんの人が来てくれることを願っています。研鑽を重ねて将来支店も持てるようになりたいです。

劉 芳さん（福島市在住 中国出身女性）

通っていた大学が春休みで、ちょうど家にいた時に東日本大震災を経験しました。新潟の中国総領事館から避難するようにと連絡がありましたが、夫や夫の家族を残して私ひとりだけが避難するということはしたくなかったので、母国へ帰国しませんでした。放射能の恐怖より家族とともに生きる方が私には大事でした。

約10年前、日本に来た頃は、言葉がなかなか通じなかったり、日本での生活になかなか溶け込めずに辛い思いをしました。その頃と比べると、震災を経験したことでより自分が強くなったように思っています。また、人の気持ちをあまり考えていなかった自分を改め、周りの人や誰かのために自分にできることはするべきだと思うようにもなりました。

現在、福島県国際交流協会主催の「ふくしまグローバルユースカレッジ2013」に参加しています。未来について考え、問題意識を持った仲間に刺激を受けています。



福島県内各地の環境放射能測定値（暫定値）（福島県 HP から抜粋）

福島県 HP では、県内各地の環境放射能測定値（暫定値）を日本語、英語、中国語で、県国際交流協会 HP では、それらに加え、タガログ語、韓国語、ポルトガル語で随時更新しています。

<http://www.worldvillage.org/>

単位：マイクロシーベルト/時間

日時	福島市	郡山市	白河市	会津若松市	南会津町	南相馬市	いわき市
（平常値）	0.04	0.04-0.06	0.04-0.05	0.04-0.05	0.02-0.04	0.05	0.05-0.06
2013.9.10 9:00	0.32	0.17	0.12	0.07	0.05	0.14	0.09
測定装置	固定型 MP	固定型 MP	固定型 MP	固定型 MP	固定型 MP	固定型 MP	固定型 MP
福島第一原発からの方向及び距離	北西 約 63km	西 約 58km	西南西 約 81km	西 約 98km	西南西 約 115km	北 約 24km	南南西 約 43km

※測定地点は、福島市は県北保健福祉事務所南側広場、郡山市は郡山合同庁舎東側駐車場、その他の市町は各合同庁舎の駐車場です。

※平常値は、県内の平成21年度放射線レベル調査結果です。



お知らせ

○外国出身者のための生活相談窓口のご案内

当協会では、外国出身の方々のために外国語で生活相談に応じています。

- 英語・中国語・日本語 毎週火曜日～土曜日 9:00～17:00
- 韓国語・タガログ語・ポルトガル語 水曜日 13:00～17:00
※第4・5水曜日は事前予約が必要です。

電話：024-524-1316(専用) E-mail：ask@worldvillage.org(専用)

発行者

（公財）福島県国際交流協会

〒960-8103 福島県福島市舟場町2-1

☎024-524-1315 FAX 024-521-8308

E-mail info@worldvillage.org

URL <http://www.worldvillage.org>